

この説明書は、Win書庫V4.1をインストールする為のものです。既に書庫の旧バージョンが存在するドライブにインストールする場合は、インストールに続けてデータの移行作業が追加されます。データ移行に関しては、「Win書庫V4.1アップデート説明書」を参照して下さい。

注意：この説明書に、「※アップデート」と付記された囲みの説明は、新規インストールの場合は読み飛ばして下さい

Win書庫をインストールする前に、次の準備をして下さい。

- ① インストールするコンピュータを準備します。
 - ・対応するOSは、Windows 7,8,10 です。
 - ・インストールするドライブは、C:ドライブ以外を推奨しますが、C:ドライブでも可能です。
 - ・外部接続したドライブにインストールすると、書庫システムを、他のコンピュータに移動して運用することも可能です。
 - ※使用する外部ドライブには、十分な記録速度が要求されます。USBメモリーを使用する場合は、USB-3以上の規格で動作するものを推奨します。
 - ・インストールするドライブに、300MB以上の空き容量があることを確認して下さい。
- ② セットアップで入力する、学校番号（注）/学校名（図書館名）/ユーザー名/パスワードを準備して下さい。

注：Win書庫では、3桁の学校番号で運用校の識別を行います。複数の学校で相互貸借運用を行う場合、学校の識別を行う為に、決められた学校番号を使用する必要があります。学校番号は、グループ校で相談して決めておく必要があります。相互貸借運用を行わない場合は、任意の番号とします。

- ③ インストールに使用する、最新のWin書庫V4.1インストールファイルを準備して下さい。

Win書庫V4.1インストールファイルは、STSホームページの「トップページ」および「Win書庫V4のページ」にあります。インストールファイルは、必ず最新版をダウンロードしてご利用下さい。ダウンロード先は任意ですが、作業のしやすさを考えて「デスクトップ」を推奨します。

ファイル名： ws41install.EXE



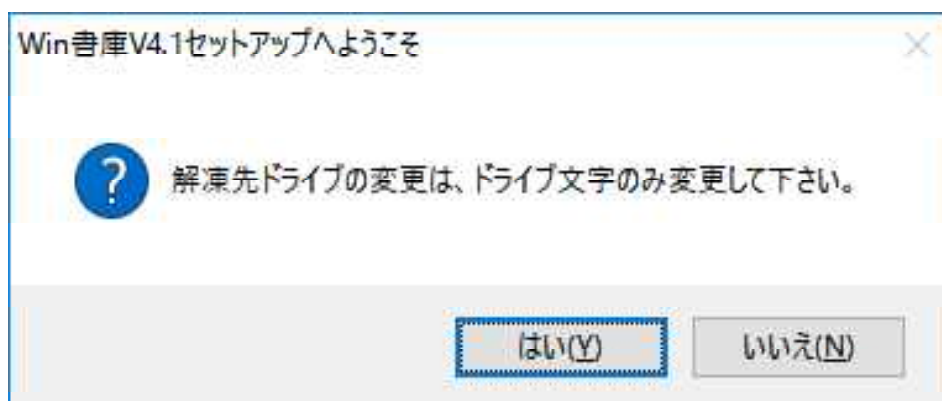
※アイコン画像は、リリースにより異なる場合があります。

1. インストールファイルの展開

ダウンロードした「インストールファイル（ファイル名 ws41install.EXE）」をダブルクリックします。

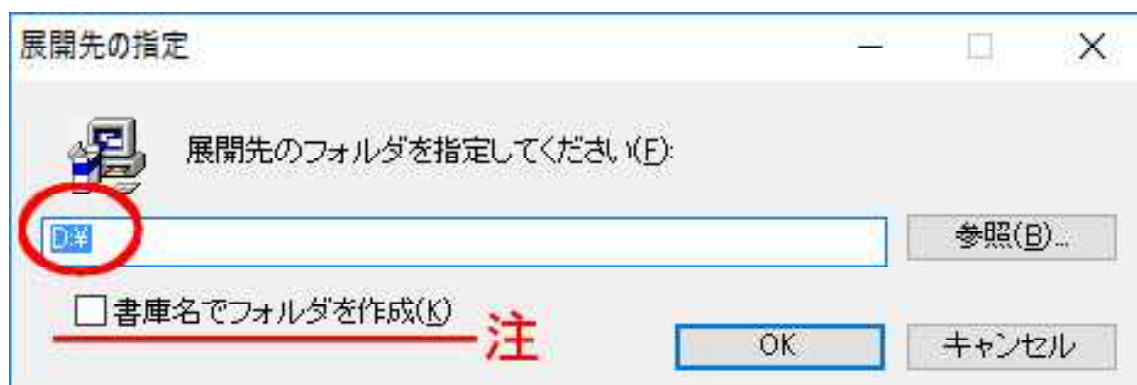
注意： 以下の手順や画面構成は、Windowsのバージョンにより若干異なりますが、基本的には、画面の指示に従って作業して下さい。

◇Win書庫V4.1セットアップへようこそ



<はい>をクリックして先に進みます。

◇展開先の指定



Win書庫V4をセットアップするドライブ名を指定します。変更する場合は、ドライブ名のアルファベット1文字だけを変更して下さい。ドライブ名は、大文字でも小文字でもOKです。

展開先の初期ドライブは、D ドライブ になっています。

例えば、セットアップ先を F ドライブ に変更する場合は、

D: ¥ を **F**: ¥ に変更します。

展開先がよければ、<OK>をクリックします。

注意：「書庫名でフォルダを作成」にチェックをつけてはいけません。

指定したドライブにファイルが展開されます。
(この作業には、少し時間がかかります。)

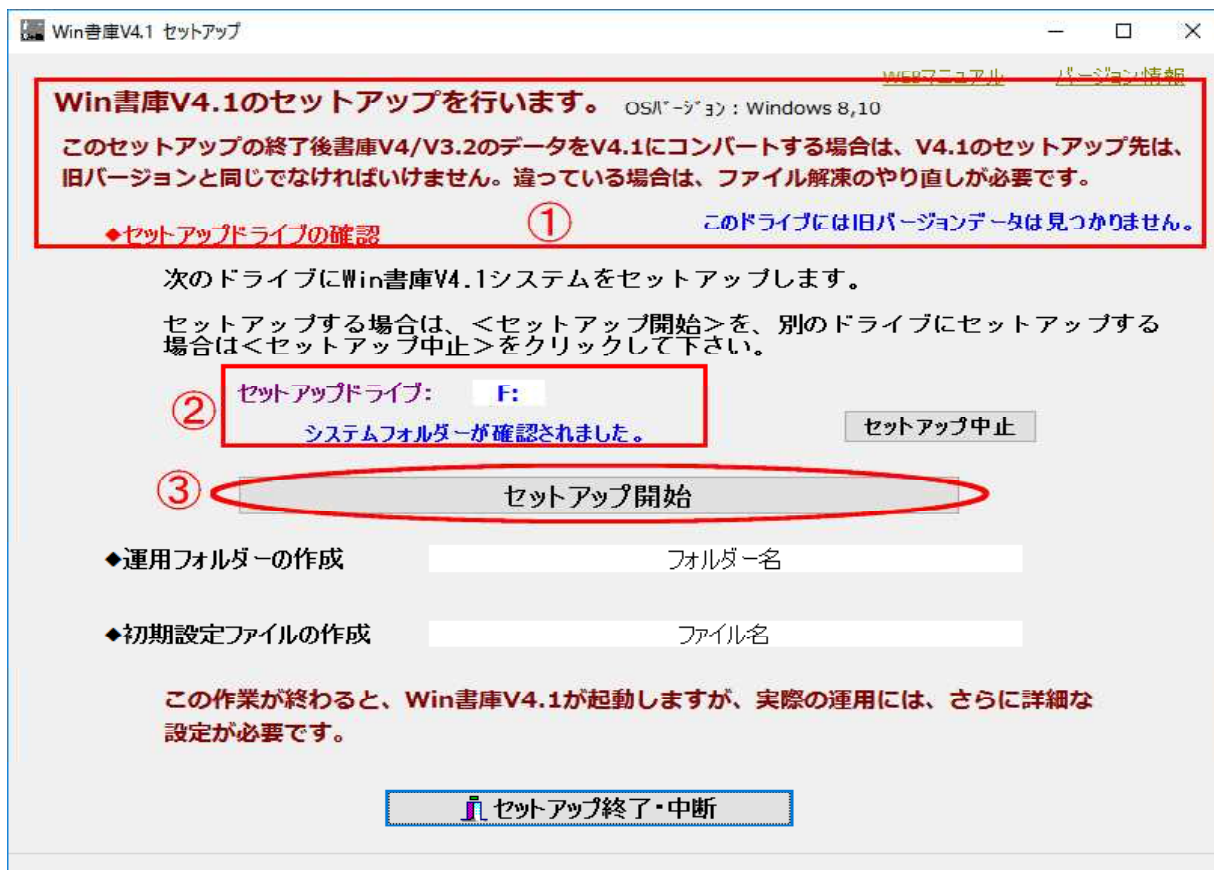
展開が終わると、<Win書庫V4.1セットアップ>が起動します。

2. セットアップの実行

◇セットアップ開始

解凍が終了すると、セットアッププログラムが開きます。

<セットアッププログラムが起動した直後の画面>



- ① セットアップで指定したドライブに、Win書庫の旧バージョン (V3.2、V4) がある場合、セットアッププログラムは、これらのデータを検出してメッセージボックスを表示します。(上記画面では、検出しなかった為、「このドライブには旧バージョンデータは見つかりません。」と表示されています。

※アップデート

旧バージョンデータが見つかったと、次のメッセージボックスが開きます。

Win書庫V4データを検出しました。

Win書庫V4データをV4.1データに変換しますか？

はい

いいえ

データ変換プログラムは、V4.1セットアップの終了後に起動します。

注意: 「いいえ」を選んでデータ変換を後で実行することもできますが、V4.1での運用を開始する前に行って下さい。

V4データが見つかった。

Win書庫V3.2データを検出しました。

Win書庫V3.2データをV4.1データに変換しますか？

はい

いいえ

データ変換プログラムは、V4.1セットアップの終了後に起動します。

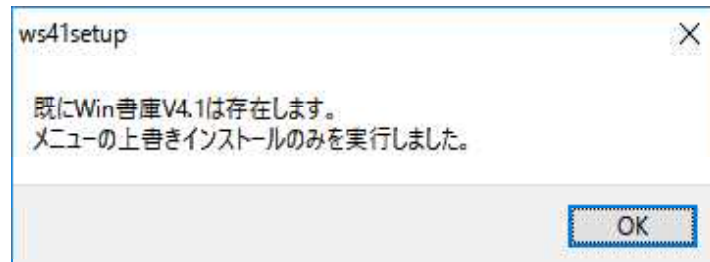
注意: 「いいえ」を選んでデータ変換を後で実行することもできますが、V4.1での運用を開始する前に行って下さい。

V3.2データが見つかった

クリーンインストール (Win書庫を初めてインストールする) の場合は、上表示は出ないと思いますが、意図的に旧バージョンが存在するドライブに、旧データを利用せずにV4.1をインストールする場合は、「いいえ」を選んで、作業先に進めて下さい。

- ② セットアッププログラムが起動した直後の画面で、「システムフォルダーが確認されました」という表示がない場合は、インストールファイルが正しく解凍できなかった可能性があります。＜セットアップ中止＞ボタンをクリックして、セットアップを中止して下さい。(STSホームページから、インストールファイルをダウンロードし直して下さい。)

参考： セットアップ開始直後に次のメッセージボックスが開く場合は、セットアップ先として指定したドライブに、既にWin書庫V4.1がセットアップされています。



この場合は、V4.1のメニューファイルのみを更新する「上書きインストール」となります。(データには影響ありません。)

このドライブに、V4.1を新規インストールする場合は、事前に既に存在するV4.1の全システムと全データを完全に削除しなければなりません。

※ 既に存在するV4.1システムを完全に削除する手順は、この文書の最後をお読み下さい。

③セットアップ開始

「システムフォルダー」が正しく確認できたら、＜セットアップ開始＞ボタンをクリックします。

＜セットアップ開始＞ボタンをクリックすると、必要なフォルダー群が作成された後、「学校設定ファイル」パネルが開きます。

◇学校設定ファイル

セットアップ設定ファイル参照

STSからセットアップ設定ファイルを受け取った場合は左のボタンをクリックして下さい。無い場合は、キーボードから入力して下さい。

◇学校設定ファイル

学校番号:	<input type="text" value="1"/>	Enter	1~999
学校名:	<input type="text" value="*****"/>		
学年数:	<input type="text" value="3"/>		1~6
クラス数:	<input type="text" value="10"/>		1~99
クラス人数:	<input type="text" value="50"/>		1~99

STS-WEB通信: 利用する メニューBldチェック: する

ここでは、ユーザー校(図書館)の基本情報を入力します。

参考:

Win書庫V4.1セットアップ設定ファイルがある場合は、ドライブにセットして参照できる状態にしてから、＜セットアップ設定ファイル参照＞ボタンをクリックして下さい。設定値を読み込むことができます。

学校番号： 相互貸借を行う学校グループを形成する場合は、グループ内で、あらかじめ重複しない学校番号を決めておく必要があります。グループを形成しない場合は、任意の番号を入力して下さい。(運用を開始してからは、変更できません。)

学校名： 学校名または図書館名を入力して下さい。

学年数： 通常は、小学校（6）、中学校・高等学校（3）を指定しますが、小中一貫校や中高一貫校では、9や6を設定して下さい。
(小中高一貫校（12）まで対応できます。)

クラス数： 1学年の所属するクラス数を入力します。学年により、クラス数が異なる場合は、一番多い学年のクラス数を入力して下さい。
(全学年の全クラス数を入力するものではありません。)

クラス人数： 1クラスに所属する生徒人数を、余裕を持たせて入力します。通常は、50を指定します。

STS・WEB通信：

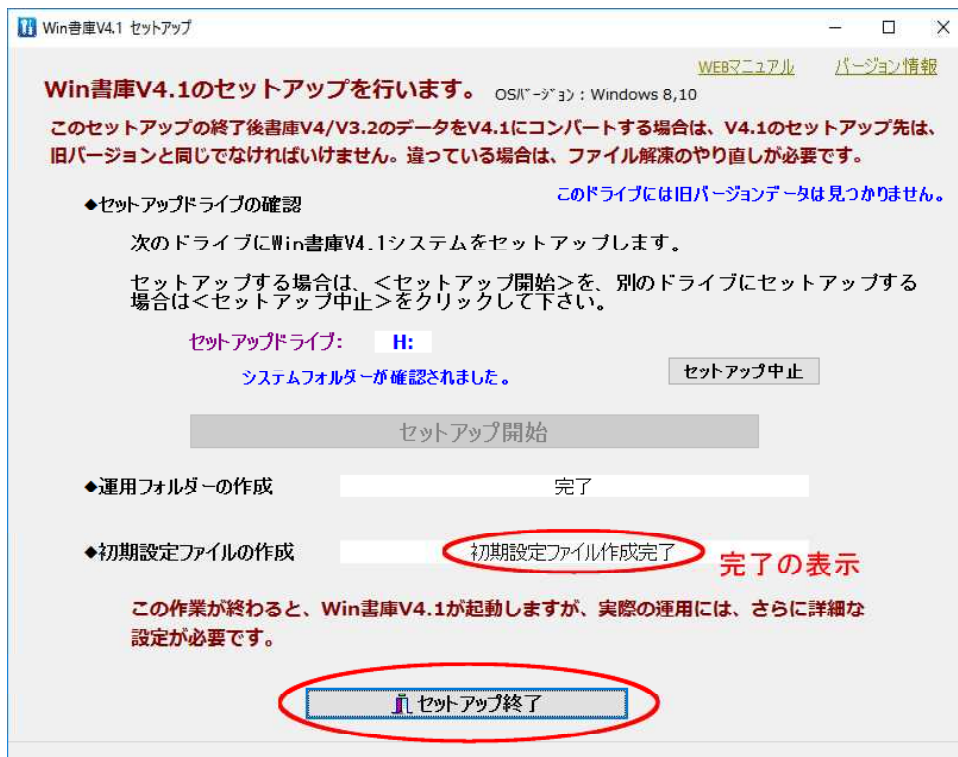
メニューBldチェック：

上記2つの設定は、インターネット接続に問題が無ければチェックを付けて下さい。問題があれば、後からチェックを外して運用することもできます。

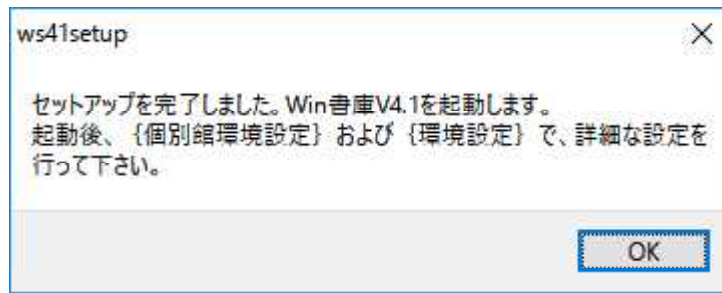
正しい設定値を入力して、<登録>ボタンをクリックして下さい。

④セットアップの終了

セットアップ作業が終了すると、「初期設定ファイル作成完了」が表示されます。



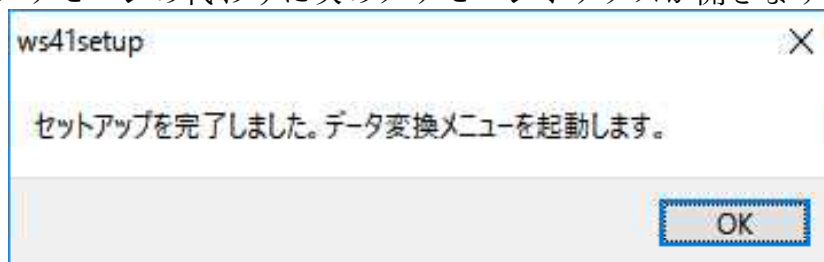
<セットアップ終了>ボタンをクリックします。



上記表示のあと、書庫V4.1の {カテゴリーメニュー} が起動します。

※アップデート

旧バージョンの書庫データが存在し、「データ変換を行う」と指定した場合は上記のメッセージの代わりに次のメッセージボックスが開きます。



データ変換に関しては、『win書庫V4.1データ移行説明書』をお読み下さい。

◇ {カテゴリーメニュー} の起動画面



3. 運用開始までに必要な環境設定

◇起動メニュー

インストール直後の起動メニューは {カテゴリーメニュー} です。このメニューは、Win書庫の基本メニューを作業内容のカテゴリーにまとめたものです。通常の運用に必要なメニューは、カテゴリーメニューで網羅されていますが、一部のメニューは含まれません。(呼び出したメニューの中から、二次的に呼び出して使用します。)

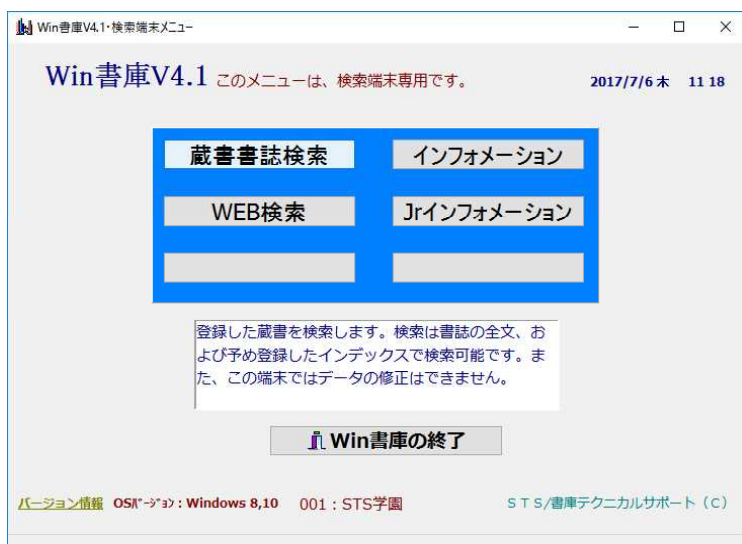
書庫V4.1には、さらに2種類の起動メニューがあります。

・ {簡単起動メニュー}



{簡単起動メニュー} は、書庫V4.1の起動可能な全メニューが全てリストされます。標準設定では、メニュー項目は、よく使われるメニューが優先して表示されるようになっているので、運用とともに、メニューの配置は変化します。最初はページを動かして、目的のメニューを探さなければなりません。やがて、通常使用するメニューはページ先頭に表示されるようになります。(固定で使用する設定も可能です。)

・ {検索端末メニュー}



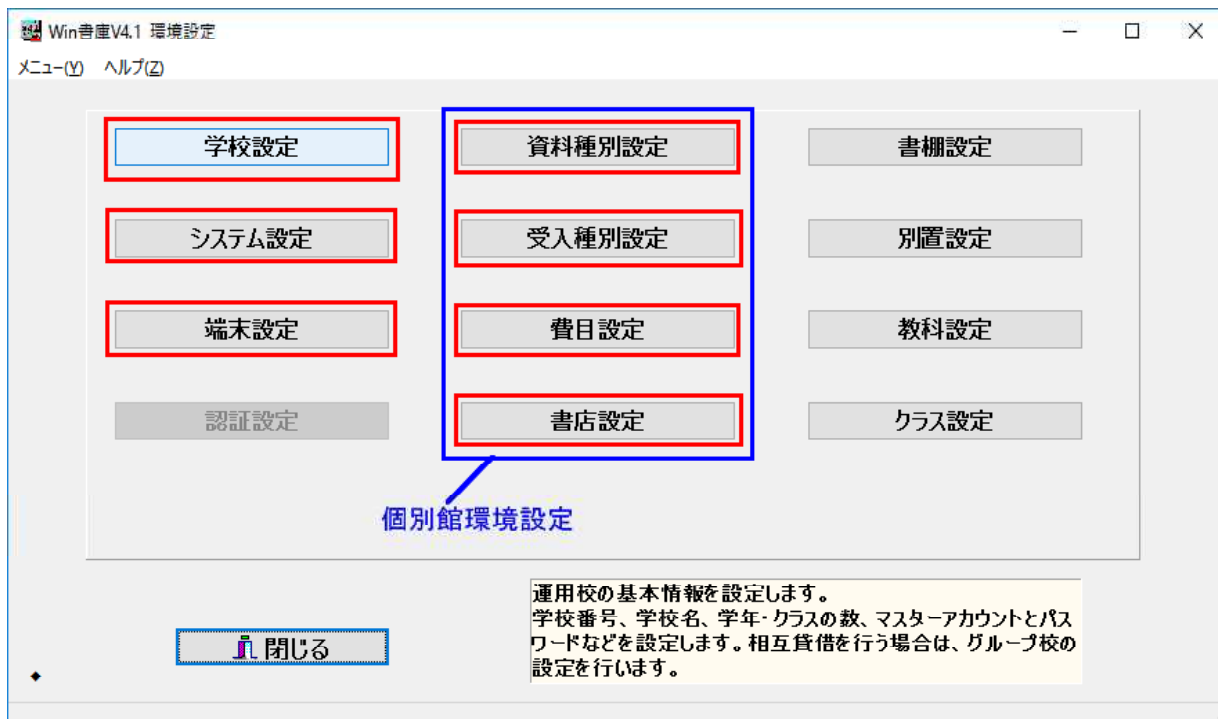
{検索端末メニュー} は、生徒が使用する検索端末の起動メニューとして使用することを想定したメニューです。起動できるメニューは限定的で、プライバシー保護やセキュリティを安全に保つことができます。

起動時に、どの起動メニューを表示するかは {カテゴリーメニュー}・ {簡単起動メニュー}、または {端末設定} メニューで行います。捜査方法は、それぞれのマニュアルを参照して下さい。

◇環境設定 ※ カテゴリメニュー≫システム管理≫環境設定

{環境設定}メニューは、書庫運用の各種設定メニューを、1つにまとめたランチャーメニューです。

< {環境設定} の起動画面 >



最初に以下の項目について確認と設定を行います。

- ・ 学校設定 {セットアッププログラム} で指定した内容が、反映されているかを確認し、間違いがあれば修正して下さい。
- ・ システム設定 {セットアッププログラム} で指定した内容が、反映されているかを確認し、間違いがあれば修正して下さい。
- ・ 個別館環境設定 書誌登録に必要な「書店」や「費目」などを設定します。
 - 受入書店……本の購入書店と割引率などを設定します。
 - 受入種別……既定値 [購入／保管転換／購買利益金] が登録されています。異なる設定で運用する場合は変更して下さい。
 - 受入費目……既定値 [公費／私費／購買利益金] が登録されています。異なる設定で運用する場合は変更して下さい。
 - 資料種別……既定値 [図書／AV資料／雑誌／その他] が登録されています。異なる設定で運用する場合は変更して下さい。
- ・ 端末設定 (端末毎に個別に行う設定です。)
 - バックアップ…既定値 [バックアップしない] が設定されています。異なる設定で運用する場合は変更して下さい。
 - NDL-OPAC検索…既定値 [検索する] が登録されています。異なる設定で運用する場合は変更して下さい。

※ 上記の設定項目は、運用開始にあたって必要な、最低限の項目です。必ず設定値を確認して、自館の運用に適切かどうかをご確認下さい。

※注意 蔵書登録を始める前に：

図書館の運営は、地域毎・学校毎に多様な形態があります。また、操作する個人個人によっても最良の環境は異なっています。Win書庫V4.1には、これらを最適な環境にする為に、様々な設定を行う事ができます。そして、これらの設定の中には、運用を開始してから（資料を登録した後から）では、変更するのがやっかいな設定もあります。（例えば、「個別館環境設定」の各項目） 蔵書登録を始める前に、必ずこれらの設定メニューに眼をとおし、必要な項目の設定をお願いします。また、個々のメニュー画面でも、メニューバーにそのメニュー固有の設定項目がある場合があります。これらの設定にも眼をとおして下さい。設定をするかしないかで、作業効率が大きく異なるかも知れません。

◇学校設定 カテゴリメニュー≫システム管理≫学校設定 から起動

この設定は、Win書庫V4.1セットアップ時に行っているのので、正しく設定されているか確認して下さい。

<学校番号> ※館番号

- ・ 館番号（学校番号）は、自館と他館を識別する為に利用します。相互貸借を行う学校グループ（グループ名などの登録が必要）で、重複の無い番号を設定しなければなりません。相互貸借を行わない場合は、特に必要のない番号ですが、{学校設定}では、必須設定の項目なので、任意の番号を登録して下さい。（詳細は、「学校設定」・「相互貸借」・「WEB設定」などのマニュアルをお読み下さい。）

- ・ 学校番号（館番号）は、運用開始後は変更できないのでご注意ください。

<学校名（図書館名）>

- ・ 運用開始後も変更する事が可能です。

<学年数/組数/クラス人数>

- ・ 年度途中で変更することはできません。

<マスターアカウント名/パスワード>

- ・ マスターアカウント名/パスワードは、「認証」を有効にして運用する場合に必要です。認証を有効にしない場合は、登録しなくても問題はありません。
- ・ 「認証」を有効にするのは、書庫の運用に慣れてからをお勧めします。

◇システム設定 カテゴリメニュー≫システム管理≫システム設定 から起動

システム設定は、Win書庫V4.1の動作の基本設定を行うものです。特に問題が無い場合は、既定値で運用して下さい。変更して運用する場合は『システム設定メニューのマニュアル』に記述してある各設定項目の注意事項をお読み下さい。

<蔵書登録番号の設定>

- ・ Win書庫V4.1の蔵書登録番号は、「館番号付き標準10桁」です。
- ・ 標準10桁のうち、末尾6桁が資料の登録番号で、スキャンした10桁バーコードの末尾6桁の番号で内部処理します。システムに登録したバーコード形式と異なる形式のバーコードをスキャン（入力）した場合は、次のように動作します。

6桁以下の番号の場合……そのまま登録番号として処理します。

7桁以上の番号の場合……下6桁を登録番号として処理します。

システムに登録したバーコード形式のバーコードがスキャンされた場合は、形式指定に従って、「館番号（学校番号）」と「登録番号」にデコードされます。

- ・ 蔵書登録番号で使用する「館番号」は、「相互貸借」にかかわる処理で利用します。したがって、相互貸借を行わないで運用する場合は、必須ではありません。

※必須ではありませんが、特に問題が無ければ、館番号付き10桁の標準番号で運用する事を推奨します。

- ・ 既に蔵書に添付してあるバーコードの形式が、継続してWin書庫V4.1でも使用できるかどうかは、STSサポート窓口にご相談して下さい。（サポート会員のみ）

<利用者登録番号の設定>

- ・ Win書庫V4では、利用者番号（利用者ID）は、「利用者種別番号1桁」＋「西暦年度2桁」＋「利用者番号4桁」（合計7桁）の番号で内部処理します。この内部コードに、3桁の館番号を加えた10桁バーコードが、利用者登録番号の標準形式です。
- ・ スキャンしたバーコードは、システムに登録された「利用者登録番号の形式」に従って、「利用者種別番号」「館番号」「入学年度」「利用者番号」にデコードされた後で、内部コードに変換して処理を行います。
- ・ スキャンされたバーコードが、正しくデコードできなければ、無効なIDと判断して処理を中断します。この点が、蔵書登録番号の処理と異なることにご注意下さい。
- ・ 現在使用中の利用者登録番号の形式が、継続してWin書庫V4でも使用できるかどうかはSTSサポート窓口にご相談して下さい。（サポート会員のみ）

<その他の設定項目> ここに示した設定項目は、その仕組みを理解して運用しないと、トラブルを起こしやすいものばかりです。設定する場合は、マニュアルをよく読み、注意点を理解して下さい。

- ・ **メニュー起動の認証：** Win書庫V4を使用するユーザーを登録し、ユーザー毎に「管理者」「職員」「生徒」の3種類の権限で、書庫メニューの起動を制限します。
- ・ **メニューの重複起動：** この設定を有効にすると、複数の端末で同じメニューを同時に起動することが可能になります。同時起動した場合は、「データの競合書き込み」に注意する必要があります。競合書き込みを自動的に回避するには、「排他制御」を有効にする必要がありますが、注意深く運用することで、排他制御を利用しなくても、競合書き込みを防ぐことは可能です。

注意： メニューの重複起動を有効にしても、同一端末では、同じメニューを複数起動することはできません。

- ・ **基本書誌データ：** 資料に固有の書誌情報を、全てNDL-OPACに依存し、基本書誌データベースを作成しないで運用する場合は、「所蔵を記録」にチェックを入れて運用します。ローカルコンピュータに、あまり大きなデータを置けない場合などに設定しますが、インターネットへのアクセスが大幅に増えるので、あまり推奨できません。

◇個別館環境設定 カテゴリーメニュー»システム管理»環境設定 から起動

個別館環境データは、主に蔵書登録時に必要なデータです。Win書庫V4.1では、{書誌登録}メニュー画面から、その場で{個別館環境設定}メニューを呼び出すことが可能になっていますので、事前の登録漏れがあっても、対処可能です。

注意： 書誌データには、個別館データコード（書店コードなど）と個別館データ（書店名など）をセットで記録しますが、運用開始後に「コード」と「データ」の対応を変更すると、統計や検索で期待通りの結果が得られない場合があることに、ご注意下さい。また、登録可能なコード番号には余裕があるので、一度でも蔵書登録に利用したコードは、変更や削除しないことを推奨します。

書店を除くほとんどの個別館データは、ほぼ同じ操作（コードと個別館データ）で設定を行いますが、書店は、「コード・書店名・割引率・割引計算式・税計算式」の5項目の設定が必要です。

<資料種別設定の画面>

※操作説明は『個別館設定のマニュアル』を参照



※他の個別館データも同様に設定します。

①コードに対応するデータをグリッドに直接入力（変更）します。もし入力カーソルが、編集対象のグリッドに表示されていない時は、対象のグリッドをゆっくり2回クリックして下さい。

②<設定を保存>ボタンをクリックして、データを保存します。

<書店設定の画面>

※操作説明は『個別館設定のマニュアル』を参照



①書店名を入力

②割引率（%）を入力

③割引計算式を「リスト」から選択

④税計算式を「リスト」から選択

⑤<設定を保存>ボタンをクリックして、データを保存します。

0:税と一括計算
1:切り捨て
2:四捨五入

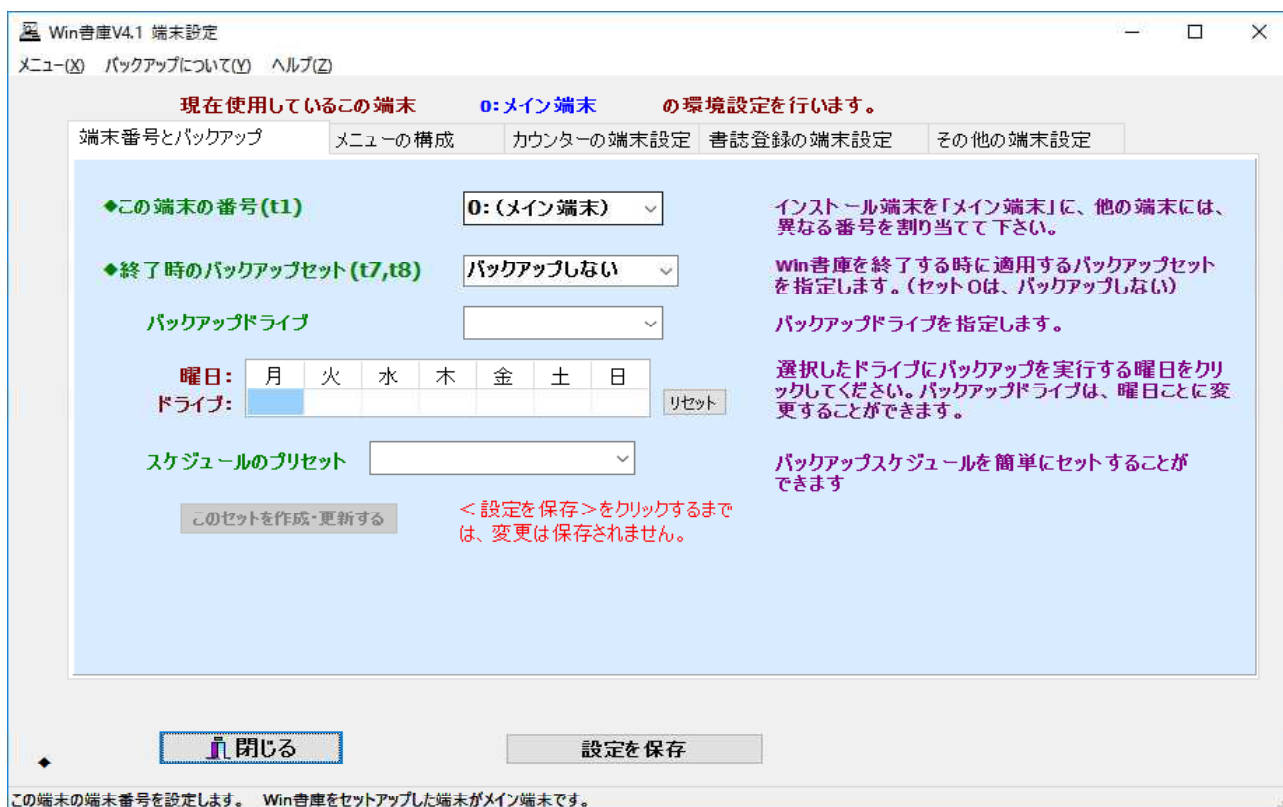
0:切り捨て
1:四捨五入

◇端末設定設定 カテゴリーメニュー≫システム管理≫端末設定 から起動

多端末運用を行う場合は、端末毎に異なる設定で運用することが可能です。
端末設定で、特に重要な項目は、「端末番号の設定」と「バックアップ」です。

< 「端末番号とバックアップ」タブ >

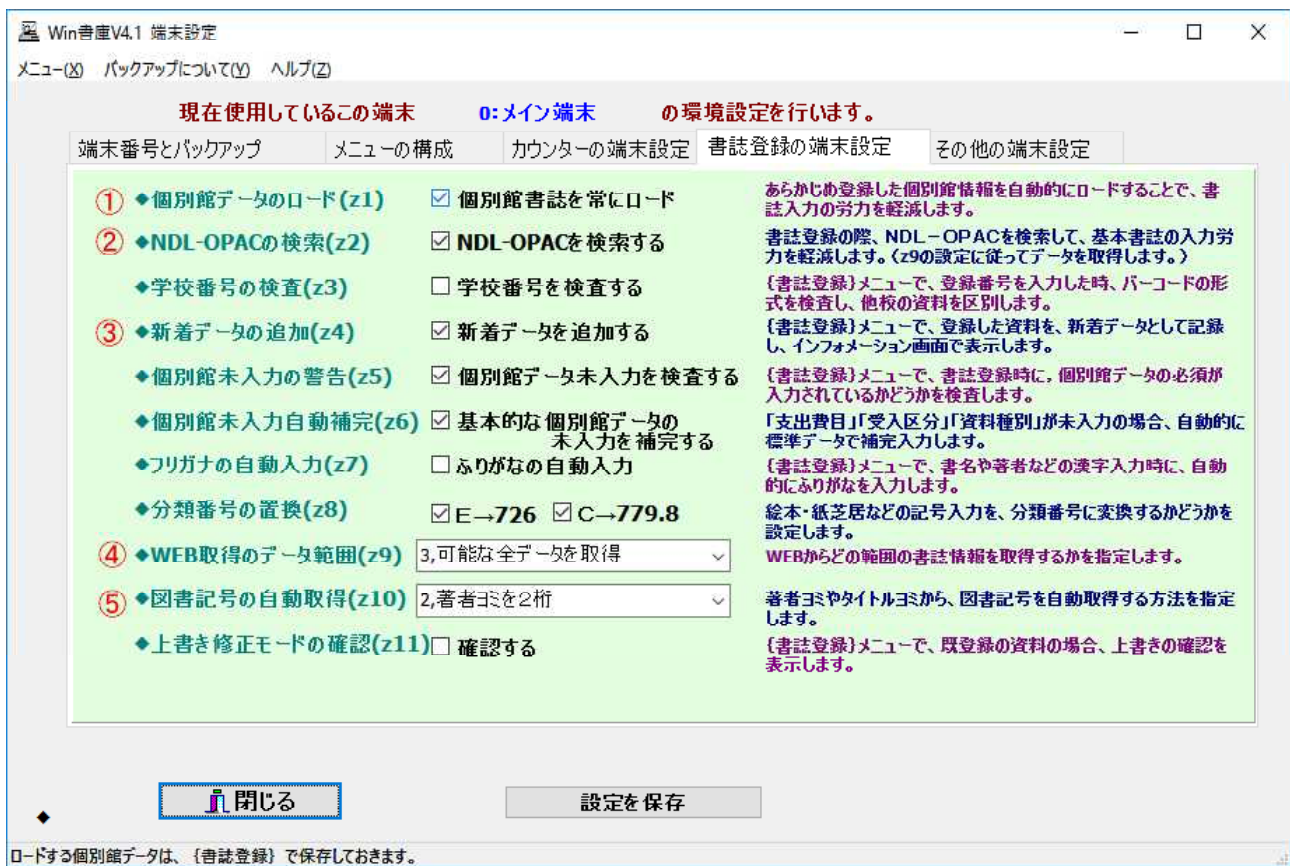
- ・ **この端末の番号：** 端末毎に異なる番号を割り当てます。また、最初にセットアップした端末（この端末に全てのデータが保存されます）は、必ず「端末番号 0（メイン端末）」で無ければなりません。（セットアップ時に設定済み）



- ・ **メニュー終了時のバックアップ：** Win書庫V4の終了時に自動的に行うバックアップの設定です。バックアップ先はドライブ名だけを指定することができます。（フォルダーなどは指定できません。）容量などはチェックしないので、空き容量に注意して下さい。またバックアップについての注意事項が、メニューバー {バックアップについて} に示しましたので、ご確認下さい。
- ・ **バックアップスケジュール：** バックアップデータは、できるだけ分散させ、複数のバックアップデータを、異なるスケジュールで保管するのがベストです。適切なバックアップスケジュールは、システムの安全性を高めます。この点についての考え方も、メニューバー {バックアップについて} をご覧いただき、理解を深めて下さい。

< 「書誌登録の端末設定」タブ > (次ページの図)

- ・ **書誌登録の端末設定：** {書誌登録} メニューでの動作を設定します。
 - ①個別館データのロード……固定内容の個別館データを登録しておき、書誌登録時に、自動的にその個別館データを呼び出して登録に利用します。個別館データが同じ場合に入力労力が軽減できます。



- ②NDL-OPACを検索する……………書誌登録時にインターネットを利用して、NDL-OPACサーバーからデータを検索して登録に利用します。
- ③新着データの追加……………書誌登録で登録した資料を、新着図書として記録します。新着データは、{インフォメーション}画面で、新着資料として表示されます。
- ④WEB取得のデータ範囲……………②でNDL-OPAC検索を有効にした時、WEBからどの程度の書誌情報を取得するかを指定します。実際に運用して、WEB検索に時間がかかるようなら、設定をより小さいモードに変更して下さい。
- ⑤図書記号の自動取得……………指定文字数の著者ヨミまたは書名ヨミを、図書記号として取得するかどうかを設定します。

<その他の設定>

{端末設定}では、その他にも重要な設定がたくさんあります。全体に目を通して、必要な項目を設定して下さい。

4. Win書庫V4の運用上の注意

以上でWin書庫V4.1の運用を開始できますが、以下に基本的な運用上の注意を列記しますのでお読み下さい。

◇メニューを最新版にアップデートすることの重要性

フリーソフトやシェアウェアソフトと市販ソフトの大きな違いは、開発工程の違いです。市販ソフトの開発では、開発工程の中にデバッグ（不具合修正）の時間やコストが十分に取られており、発売するまでに十分なデバッグが行われています。（それでも、バグは残るのですが。）しかし、フリーソフトなどでは、この工程に時間やコストをかけることができません。もちろん可能な限りの動作確認は行っていますが、リリース後にも、たくさんのバグが見つかります。その為、開発者は日々バグ修正を行い、そのつどサポートサイトに修正版をアップデートします。フリーソフトの利用者は、最初にダウンロードしたプログラムをそのまま使い続けるのではなく、定期的に修正プログラムをダウンロードして、最新版に更新する必要があります。また、不具合を発見したら、積極的に掲示板に書き込んで、不具合の存在を開発者に知らせて下さい。一般的に、開発者はリリースしたソフトを実務として毎日使う訳ではありません。発見されたバグ修正と使い勝手の向上に取り組むのが精一杯です。つまりフリーソフトのデバッグ工程は、利用者に委ねられていると言ってもよいのです。このことを理解していただいた上で、フリーソフトやシェアウェアをお使いいただきたいのです。今お使いのプログラムは、完全なものではありません。新しくアップロードされたプログラムが、一歩完全なものに近づいたプログラムですので、ぜひ最新版をアップロードして下さい。

最新版を入手する方法 最新版を入手する方法はいくつかあります。ここでは、Win書庫V4.1実行中に行う3つの方法を紹介します。

- ① 各メニューの「メニューバーのヘルプ」から、<このメニューの最新版をダウンロード>を実行して下さい。お使いのメニューが、その時点の最新版に置き換わります。（お使いのメニューが既に最新版であっても、ダウンロード更新されます。）

※ メニューバーの<ヘルプ>には、「バージョン情報」というサブメニューがあり、メニューの開発Bld（ビルド）番号とリリース年月日を知ることができます。この情報で、ご使用のメニューが最新版かどうかを判断します。

- ② メニュー {メニュー管理} を実行して、全てのメニューのBldをチェックし、更新が必要なメニューを抽出してアップデートを行います。（旧バージョンと同じアップデート方法です。）
- ③ スタートメニューの画面上で、メニューバー»ヘルプ»Win書庫V4.1の一括修正ファイルダウンロード をクリックして、ファイルをデスクトップにダウンロードし、一括アップデートを実行します。

注意：③を実行するタイミングによっては、より新しい修正版が①や②で取得できることがあります。

古いBldのメニューで生じる不具合は、最新Bldのメニューで解消されている可能性があります。問題が発生した場合は、必ず最新のBldでの動作を確認の上、問い合わせして下さい。（STSからの直接サポートは、サポート会員のみ）

◇バックアップ

図書管理システムは、書誌データを中心とした巨大なデータベースシステムです。書誌の入力には大きな労力を必要とします。万一、データを失うことがあれば、復元には多大のコストがかかります。バックアップは、万一の場合にそなえ、労力をかけずにデータ復元を行う最善の対策です。

Win書庫V4.1には、終了時に自動的にバックアップを実行する機能があります。この機能を有効にすることで、最低限のデータ保証が可能です。ここでは、バックアップについての基本的な注意を示します。

- ① バックアップ先のドライブは、書庫がセットアップされているハードディスクとは異なるハードディスクを指定して下さい。(同一のハードディスクの場合、機械そのものが故障した時、バックアップデータも一緒に壊れます。)
- ② バックアップは、正しいデータ（問題の無いデータ）で行う必要があります。何か異常があった日にバックアップを実行すると、以前作成した正しいバックアップデータが、異常のあるバックアップデータに書き換えられます。「何か問題があった日にはバックアップしない」ということを理解して下さい
- ③ 端末が複数ある場合は、端末毎にバックアップスケジュールを変えて下さい。異なる日付のバックアップデータを持つことで、より安全性が高まります。
- ④ バックアップ以上に、データの復元は慎重に行わなければなりません。{データ復帰}メニューの「データ復元について」をよくお読み下さい。

◇各メニューのメニューバー<ヘルプ>

<ヘルプ>には、基本的に以下のメニュー項目が含まれます。(全てのメニューに、同じ項目があるとは限りません。)

- ・ **このメニューについて：** 運用上特に注意すべき点があるメニューについて、この項目があります。基本的なことで、知っておいてほしい内容などが記載されていますので、必ずお読み下さい。
- ・ **WEBマニュアルを見る：** インターネットを通じて、STSホームページにある Win書庫V4 の個別メニューのマニュアルを参照します。同じ内容のPDFファイルが書庫セットアップドライブの<¥WS41¥マニュアル>フォルダーにあります。WEB上のマニュアルは、内容が更新されている可能性があります。
- ・ **バージョン情報：** このメニューの「Bld番号」と「リリース年月日」が表示されます。
- ・ **このメニューの最新版をダウンロードする：** このメニューを単体で最新版に更新します。ただし、現在使用中のプログラムが既に最新版の場合は、更新を行っても変化はありません。

◇Win書庫V4.1スタートメニューの最小化状態

スタートメニューは、書庫のさまざまなメニューを起動する為の、一種のランチャーです。一つのメニューを起動すると、スタートメニュー自身は、デスクトップ下の「タスクバー」にアイコンとして最小化されます。起動したメニューを終了すると、再び元の大きさに復帰するのですが、状況によっては、最小化したまま復帰しない場合があります。(この状態で、デスクトップの「Win書庫V4アイコン」をダブルクリックしても、スタートメニューは起動しません。既に起動しているので、重複起動できないから。) その場合は、タスクバーのアイコンをクリックして復帰させて下さい。

メニューによっては、スタートメニューを完全に閉じてから、選んだメニューが起動するものがあります。その場合は、タスクバーにスタートメニューのアイコンはありません。再度、デスクトップの「Win書庫V4.1アイコン」をダブルクリックして、スタートメニューを起動して下さい。

◇書誌登録での必須入力書誌項目

Win書庫V4.1での必須入力書誌項目は、「タイトル」だけです。他の書誌項目が入力されていなくても、タイトルが入力されていれば登録可能です。

Win書庫V4.1では、旧バージョンの「仮登録」の概念はありませんが、不完全な書誌情報で書誌登録を行うと、統計値を集計する際、「不明」に集計される冊数が増加します。「不明」をなくす為には、分類番号と次の個別館書誌項目の入力を行って下さい。

- ・書店
- ・受入種別
- ・受入費目
- ・受入年月日
- ・資料種別

◇WEB運用について

WEB運用は、複数の図書館がデータを共有しながら運用する簡易型資源共有システムです。NDL-OPACの検索を通じて、他館の所蔵を知ることができ、同時に借受依頼を送信する事が可能になります。(依頼を受けた館は、リアルタイムで応答できます。) WEBサーバーを使用した運用となるため、通常運用以上にサポートが重要になります。そのため通常のサポート会員とは異なる、WEBサポート会員になっていただく必要があります。また、WEBサーバーをどのように準備するかで、2とおりの方法があります。

- ・それぞれの会員校で準備する

PHP5が動作するWEBサーバーが必要です。フォルダーやデータなどの配置について、STSと協議して、会員校の方で設定して頂きます。WEB会員の会費以外の費用は発生しません。

- ・STSが提供するサーバーを使用する

サーバーの設定およびメンテナンスはSTSで行います。WEB会員の会費以外に、サーバーのレンタル費用が必要となります。

WEB運用は、通常運用からいつでも変更可能ですが、「他の共有館と重複しない館番号(学校番号)」が必要です。館番号は、運用開始後は変更できないので、通常運用でWin書庫V4.1を導入する場合でも、将来の事を考慮して館番号を決めるようにして下さい。

◇Win書庫V4.1のアンインストール

書庫をインストールしたドライブの<WS41フォルダー>に、「Win書庫アンインストール」フォルダーがあります。フォルダーの中には、5つのバッチファイルがあり、それぞれを実行すると、「C:ドライブ」から「G:」ドライブにインストールした書庫を完全に削除する事ができます。詳しい使用方法については、同じフォルダーに「Win書庫V4.1のアンインストール.pdf」という説明文書があるので、こちらをお読み下さい。

※ これらのバッチファイルと説明文書は、STSのホームページからダウンロードする事もできます。